

TIME	内容
	オープニングタイトル
	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>藤井： 藤井未莉佳です。 みなさん、お気づきかもしれませんがスタジオのセットが新しくなりました。</p> <p>田村： すごいね。明るいもんね、画面すら。</p> <p>藤井： そうですね。</p> <p>田村： こうやってみたら前のスタジオ、暗かったんですね。 明るい。朝がきた感じがしますね。</p> <p>藤井： 4月1日の放送から新しくなるということで。 4月1日から新年度ということで気分も新たに。 そして、吹田市も80周年を迎えるということで、キャッチフレーズと記念ロゴもこちらにありますね。</p> <p>田村： 可愛いロゴですよ。よく出来てるやつね。</p> <p>藤井： 80周年のメモリアルイヤーということで、番組共々盛り上がって いきたいですね。</p> <p>田村： メモリアルですよ。すごいですよね、80周年って。頑張りましょうか。</p> <p>藤井： 今回の特集は80年の歴史を振り返る内容をお届けします。 昔、吹田で撮られた写真ってありますよね、たくさん。</p> <p>田村： まあ、それはいっぱいありますよね。</p>

藤井：

昔の白黒の写真だったり、当時の様子を知る貴重な資料ではあるんですが、写真の場所が今どういうふうになってるのかって。

田村：

見比べる方法あるんですか？

藤井：

見比べる機会、なかなかないですよ。

なので、昔の写真の場所は今どうなっているのか、

題して「写真から辿る吹田」。廣川リポーターが行ってくれました。

TIME	内容
	<p><u>廣川</u> こんにちは！リポーターの廣川陽子です。 私は今、JR吹田駅 北側にやってきております。 今回の特集は写真の場所を探せ！ということなのですが。 あっ、これですね。写真が来ました。 えっ？これ写真1枚で探すんですか？これだけで？ これ、どこやろ？「三和銀行」って、今なんの銀行やっけ？ で、これは駅は駅ですよ？</p> <p><u>ナレーション</u> ということは、この辺りであることは間違いなさそう。聞き込み開始です</p> <p>廣川： これって、どこの場所かわかりますか？</p> <p>男性： 向こう側。ここにな、今のUFJ・・・USJか銀行あるやんか。 これはそれや。せやから、これは向こう側や。</p> <p>廣川： どれくらい前のことかわかりますか？</p> <p>男性1： これ、万博やから。</p> <p>廣川： そっか！これ、「万博」って書いてますね。</p> <p>男性1： 万博のマークやんか。だからもう50年前か？あの万博。</p> <p>廣川： そっか、それくらい前ですね。</p> <p>男性1： 残ってるのはコレ。鳩は吹田の平和のシンボルのマークやわ。</p> <p>廣川： じゃあ、これ探しに行ってきます。</p>

男性1：
もう行ったらすぐわかるわ。

ナレーション

この写真は初級編だったんですね。お父さんが教えてくれた通り、吹田駅の南側へとやってきました。すると、先ほどのお父さんが心配して場所を教えに来てくれたんです。吹田の人ってみんな優しいですね。

男性1：
これ。

廣川：
あっ！これ！

男性1：
それとこれ（三和銀行）な、ちょうど三菱UFJって書いてあるねん。白い建物な。

ナレーション

確かに写真と同じ鳩の銅像が今も残っています。
さらに三和銀行の場所を確認しに行くとありました！三菱UFJ銀行！

廣川：
ということで、こちらの写真はJR吹田駅前広場からの写真ということがわかりました。スッキリしました。

ナレーション

この写真は1970年ごろのJR吹田駅前広場。
駅舎奥にはアサヒビールの工場が見えます。
看板にある「エキスポ70」のロゴは当時の万博の盛り上がりが見えますね。
この場所は当時「三角広場」と呼ばれ、多くの人が集まり、イベントも開催されていました。
また、駅舎の場所は現在より大阪側にあり、万博終了後の1979年に現在の場所に移転しました。

廣川

次の写真、ちょっといいですか？

あっ！町の写真ですね。車が通ってるけど、食堂、うどん、メシ、にぎり寿司かな？いろいろありますね。
ということは、この辺が商店街だから、ちょっと行ってみましょうか。

ナレーション

ということで、JR吹田駅前に広がる商店街を中心に聞き込みをスタート。
交差点付近で当時のお店が残っているかどうか調べてみました。

廣川：

寿司割烹仕出し、なんか怪しいですね。あっ、創業昭和3年だから結構古いんじゃないですか？ここちょっとどうかな？
すいません、ちょっとお伺いしたいことがあるんですけど・・・

男性2：

ちょっと？

廣川：

ありがとうございます。よかった。どうかな？わかるかな？

こんにちは、すいません、急に。この写真の場所を探しているんですけどもわかりますかね？

男性2：

これは？

廣川：

お寿司屋さんなのかな？と思って、ちょっとここへ来させてもらったんですけど。

男性2：

うち昭和20年ごろの寿司屋は提灯がかかってたんですわ。
だから、ここはウチじゃないかなと思いつつも、僕のオカンやったら、お母さんやったらわかるかもしれません。ちょっと呼びましょか？

廣川：

いいんですか！？よかった！

男性2：もしもし～

ナレーション

なんと、お仕事中的お母さんをお呼びしていただくことに。

男性2：

これどこかわかるか～って。

廣川：

すいません、急に。

女性1：

これあれ、あれや！

男性2：

わはは。わかるんや。

女性1：

えっとね、パーマ辻やろ。せやから、これがね、今「とり信」があるところ。
で、ここが不動産屋さん。

男性2：

ほんなら、こっちは？

女性1：

で、こっち側が駅に行く方。

廣川：

こうですね。

女性1：

そうそう！

ナレーション

またしても、いとも簡単に場所を特定してくれました。

廣川：

今でもあるお店ってないですか？

女性1：

今でもあるお店は、この文房具屋さんがこっち側へ行ってるわ。

廣川：

移動してるけど…

女性1：

移動してる。高浜神社の裏に入っていく道の角っこに。

男性2：

ああ、あるなあ。

女性1：

あそこや。

ナレーション

写真に写っていたお寿司屋さんは「なるを」さんではありませんでしたが一つ南側の交差点がその場所だということで、早速向かってみました。

廣川：

この辺が、この交差点になると思うんですね。

あっ！スクランブル交差点って、さっきおっしゃってましたよね。

で、えっと、とり信！とり信さんですよね！

とり信ってさっきおっしゃってたでしょ。

あ！新聞屋さん！新聞のお店があるって言ってましたよね。

道の広さとか、交差点の大きさとかそのまんまなんじゃないかな？

ということで、こちらの写真は旭通り商店街のスクランブル交差点、この辺りから撮られた写真だということがわかりました。

もっと難しいかなと思ってたんですけど、地元の昔からこの辺りに住まれている方はすぐにわかってましたもんね。

いや～、こんなに簡単に見つかるとは思いませんでした。

ナレーション

この写真は1961年ごろの旭通り商店街スクランブル交差点付近。

通りの西側にはアーケードがあるのがわかりますね。

この場所は当時の吹田の中心地として賑わっており、通りはすれ違うのが大変なぐらい人で溢れていました。

廣川

さあ、それでは続いていきましょう！

なんか建物ですね。なんの建物やろこれ。周りの風景が逆になさすぎてこれ、わかるかなあ。「所得税の申告は3月15日まで」いんいん。

茨木事務所って書いてますね。税務署なのかな？

でもここにポスターみたいなのが、あ！「東映」で書いてる！

「東」の映画の「映」で「東映」、東映や！

ちょっとこれ、映画館ほいので、映画館が今もこの辺りにあるのかどうかもまずそこから調べていきたいと思います。

廣川：
この辺で映画館ありますか？

Aさん：
映画館ないです

廣川：
ないですか。

Bさん：
ないんじゃないですかね

Cさん：
ないと思います。

ナレーション

聞き込みを続けてみると、どうやらこのあたりに映画館は存在しないという結果に。そんな中、ある手がかりが。

廣川：
この辺りに映画館ってありますか？

男性3：
映画館はない。昔はあったけどね。

廣川：
昔はありました？

男性3：
ああ、もうない今は。

廣川：
ちなみに、これって見覚えありますか？

男性3：
昔そこらへんにあったけどね。この（向こう）の通りにあったけど、今はない。

ナレーション

なんと昔は映画館があったという情報が！さらに聞き込みを続けると。

女性2：

あのあそこ、勤労者会館の向こう側にね

女性3：

大きな交差点のところにあったんです

廣川：

これですか？

女性3：

はい。

ナレーション

有力な場所情報がわかりました。その付近の交差点目指して進んでみると。

廣川：

たぶんこっち側にも道があるから、角っこにあると思うんですね。

待ってください、これ！あの街灯の形一緒じゃないですか？

ほらほら、あれ見て！これと一緒に気がする。この場所ですね。

ということで、この建物は映画館だったということですね。

この交差点の向こう側昭和町にあったんだそうです。

ナレーション

この写真は1978年ごろの吹田東映の写真です。

当時、吹田市の商店街には映画館や芝居小屋が数多くあり、高浜神社裏には

「吹田館」、元さんえい市場の場所には「吹田東宝」がありました。

廣川

楽しくなってきましたね。次行きましょ！

あっ、また建物きた！

結構立派な建物で洋風なんですよ。でも、文字が全くわからない。

これ、私の予想では、図書館とか学校にしては小さいかな？

その辺かなと思うんですけど。

ナレーション

予想を立てて聞き込みを続けるも、お題が難しいのか、全く手がかりが掴めません。

廣川：

ちょっと何人かに聞いてみたんですけど、難しいみたいですね。
歴史に詳しい人に聞かないとダメかなと思うんですね。

ナレーション

急遽作戦変更。

この周辺の歴史に詳しいとある場所で聞いてみることにしました。
早くも裏技を出しちゃいました。

廣川：

こんにちは。ちょっと聞きたいことがあって来たんですけど、
この写真の場所を知りたいんですが、わかりますか？

理事：

これは昔の市役所。

廣川：

市役所？

理事：

ここの裏にマンションがありますね。あそこが元々市役所なんです。

廣川：

今ある場所とは違う。

理事：

そうそう、ここに。昭和の15年までここにあった。

ナレーション

吹田市発足当時の市役所は高浜町にありました。

もともと代官所だったこの場所を明治政府が買い取り、村役場、
町役場を経て市役所に移り変わっていったそうです。

現在の市役所へは昭和16年に移りました。

明治時代、高浜神社前の道はメインストリートで、市役所の他にも
銀行などが立ち並び賑やかな通りでした。

廣川：

あっ！ほんとだ。

理事：

吹田村。

廣川：

村だったんだ！

理事：

その前が代官所。村になって町役場になって市役所があったわけやね。

廣川：

この場所にこれがこういうふうに建つてのかな？

理事：

そうですね。

廣川：

さあ、吹田の昔の写真を辿ってきましたが、いかがでしたでしょうか？
田村さんも知らない場所、あったんじゃないですか？

TIME	内容
	<p>田村： へえ～、面白い。</p> <p>藤井： 見比べてみると、面影は残ってましたよね。</p> <p>田村： 残ってるところもあるし、最後の市役所なんかは全然ね。 普通のマンションになってましたけど。面白いね。すごいわ。</p> <p>藤井： 吹田は千里ニュータウンがあるので、新しい街という印象が強いんですが、 古くからの集落もあって、街並みが大きく変わった場所も たくさんあるんですね。</p> <p>田村： 映画館とか芝居小屋もあったのは知らなかったです。 そんな栄えてたんですね。</p> <p>藤井： 吹田市になる前は、千里村、岸部村、豊津村、山田村、 新田（しんでん）村、吹田町というふうに分かれていたそうですよ。</p> <p>田村： それが合併して吹田市になってるんですね。面白い。 これ、もっといろんなところでやってほしいわ。</p> <p>藤井： 今回は JR 吹田周辺を中心にお届けしましたが、市内はすごく広いですし、 古くからの集落もたくさんありますので、いろんな場所で このシリーズを続けていきたいと思います。</p> <p>田村： ぜひとも。（今回は）歩いていける範囲やったからね。 （次は）原チャリくらいで行動してもらって。 いちいち原チャリで移動してもらってね。</p> <p>藤井： それも、いろんなところを探せますね。</p>

田村：

でも、みんな優しいね。ちょっと聞いたら、一緒に行ってくれたりとかお母さん呼んでくれたりとか。温かみがあって。

藤井：

良い人ばかりでしたね。みなさん、お世話になりました。

田村：

もっといろんなところやってください。

藤井：

次回もお楽しみにしてください。

田村：

またあるんですね？

藤井：

はい。いろんな場所を訪ねますので。

田村：

どんどん行きましょう。お願いします。

藤井：

以上、特集でした。

田村裕のすい散歩

田村：

すい散歩のお時間でございますが、すい散歩の行き先を
抽選で決めようかということになりまして
この中に今、たくさん入ってます。

藤井：

カプセルに入っています。行き先が。

田村：

これにしましょう。(明けて)
お！ 吹二！

藤井：

吹二？ 吹田第二？

田村：

吹田第二小学校区。
俺住んでたわ。

藤井：

あ、そうなんですか？

田村：

ということでこちら、吹田市役所からスタートしたいんですけども
残念ながら大雨でございます。
僕がホームレス中学生で印税がたくさん入るという事で、
どうせなら吹田に税金を納めたいなということで、
そのためにわざわざマンションを借りました。吹田市に。
本を出したのが2007年やから恐らく2008年。
このマンションで自分ひとりの単独ライブのネタ作りをしてて
夜中、この辺住んでる知り合いのお店を経営している店長さんと
「1杯だけどうですか」「じゃあ行きましょう」って事になって
男二人もなんやからっていうので、女の子を呼んでくれたんですよ。
その子が今の奥さんなんですよ。
そうや、今思ったらこのマンション住んでなかったら
出会ってなかったかもしれないですね。
僕も得してますね。自分にも帰ってきてますね。

田村：

こんにちは。 この辺は住みやすいですか？

男性：

いいですよ。 いい所ですよ。

田村：

マスク細目に使いはりますね。

男性：

急いでてん。 余計な事言うな

田村：

すみません。

男性：

あれ？ J:COM？

田村：

あ！ すげえ。 何で分かったんですか？

男性：

そりゃ分かるよ。 この辺歩いてはったら。 見てるもん。

田村

見てくれてます？ ありがとうございます。

J:COMの良い所はどういう所ですか？

男性：

J:COM？ J:COM なあ、気を遣わんで見れるねん。

田村：

気楽にリラックスして見れると。

男性：

そうそう！

田村：

ほめてるのか褒めてないのか。

男性：

褒めてるよ。

田村

誉め言葉ですよ。

これ、噂の川ですよ。ヌートリアがいるという噂の川ですよ。

ヌートリアってカピバラみたいなやつですよ。

お母さん、この川ヌートリアいるんですか？

女性：

いますよ。

田村：

いる？ 見たことある？ どのへんで見たことありますか？

女性：

この辺の川

田村：

マジっすか。ほんまにおるんや。何匹くらいいるんですか？

女性：

あ～、わからへん。たくさんいる。

田村：

へ～、すごいなあ。

今日もいる可能性ありますか？

女性：

たぶんもうちょっと暖かくて、天気がいい日に出てくるんじゃないですか？

田村：

なるほど。そうか雨上がりやもんね。

女性：

何回か来られたら多分見れますよ。

田村：

そうですか。そんな頻繁におんねや。

田村：

さあ、ここに何かありますよ。ヌートリア沿いに。
ミシンカフェ？ 気楽でかつ快適にソーイングを楽しんでいただけます。
何やそれ、珍しいなあ。 行ってみます？
こんにちは～。
こちらはこういったお店になるんでしょうか？

森さん

こちらはミシンカフェやってます。
もう5年ぐらいなるんですけど、まあまあぼちぼち。

田村：

結構喜ばれてるんですか？

森さん

そうですね。

田村

へえ。喫茶としてもつかわれるんですか？

森さん

コーヒーを飲み来られるお客さんの中には、
お母さんがミシン得意やったから、こういう雰囲気の中でコーヒーを飲みたい
と言うお客さんもいてはる。

田村

へ～、なるほど。むしろそれが懐かしいねや。

森さん

そう、ノスタルジー。

田村：

なるほど～。 ちょっと中見せてもらってもいいですか？

森さん

どうぞどうぞ。 やってください。
どうぞ、お掛けください。

田村：

ミシンなんて、小学校の授業ぶりぐらいかな。

森さん：

でも私たちの世代と違って、田村さんの世代やったら小学校の家庭科で男性でも（ミシン）やってはるよね。

田村

でもこんなデジタルなかったですよ。さすがに。ヘブライ文字縫いですよん。

森さん

そういうところに興味持ちはるとは思わなかったなあ。

田村

何すか！ これ。
この形に縫えるってこと？

森さん

まあね。こういうことになります。

田村

あ～、すげえ！ うわあ！

森さん

例えば子供服の裾の所にそういう刺繍をしてあげたりしたら、すっごく喜んでくれるって

田村

これは喜ばれますわ。手作りでこんなん作られたら。

森さん

そうなんです。

田村：

すげえ！ これ俺が作ったの？ 信じられへん。

森さん

ここにティッシュを入れて。

田村：

おお～！良くてきてる。ティッシュ入れになってるねや。
これでティッシュ入れれて、ここに小物とか飴ちゃんとか入れれて
良いっすね～。手作りってやっぱ思いがのりますもんね。

森さん：

私、今62歳ですけど。

田村：

若い、きれいですね～！

森さん：

あら、そうですか？

八歳の時に母が作ってくれたのまだ持ってますよ。

田村：

そうなんですか？ すごえ。

森さん：

私がミシンカフェやってるのも、私が七つの時に父が亡くなって福井やったんですけど、大阪に引っ越してきて母がミシン仕事で私を育ててくれたんですよ。

田村：

なるほど。すごいな～。人に歴史ありですね。

森さん：

ミシン仕事やからずっと家にいてくれたんです。

学校から帰ってきても、母が家にいてくれるから凄く楽しかったです。

田村：

なるほど。女手一つで育ててるけど寂しさは無かったっていう。

森さん

そうそう。やっぱり良くわかってはるわ。

田村：

そういう色んないい思い出が全部詰まった結果がこの形に繋がったんですね。

森さん

そうなんです。

田村：

お母さん、ご存命ですか？

森さん：

いえ、去年の暮に亡くなったんです。

田村：

そうですか。でもお母さんこれ喜んでくれたでしょ？

森さん：

そうです。喜んでくれました。

田村

なんか娘さんがこれやってくれるの嬉しいと思いますわ。

森さん

良い親孝行出来たかなと思っています。

田村

素晴らしい～

(予告)

田村：

何見てたん。 みんなで何か見てなかった？

子どもたち

ヌートリア

田村：

みんなで俺をだましてないやんな？

子どもたち

だましてないよ。

田村：

お母さん何見てるの？ こうなってるってこと？

うわ～、これは職人さんの、すげえ！ちっちゃ！

細かい作業ですね～。

エンディング

藤井：

ということで、エンディングのお時間になりました。

田村：

ありがとうございます！

藤井：

あっという間ですね。

田村：

毎回、早いですね。

藤井：

でも、今回は紹介したいものがあるんです。

田村：

お！何ですか？

藤井：

それが、今流れているこの曲！

田村：

これですよ。今まで流れてなかったですからね。

この曲、バイオリンっぽい音が鳴ってますけども、もしかして！？

藤井：

葉加瀬太郎さん、吹田市出身のね。葉加瀬さんが作曲して下さった
「Home Suita Home」。

田村：

名前も、まさに吹田が入っている。「Home Suita Home」。

すごいね。吹田市のために作られた感じがなくて、

もともと世界の名曲の中を抜粋したみたいなの。

それぐらいに感じますね。

藤井：

本当に体に馴染んでくるような。

田村：

すごいわ。やっぱり。

藤井：

これを吹田市のために作ってくださったということで。

田村：

すごいな。ホンマに有難味が。

藤井：

よくぞ聞いてくれました。「お元気ですか！市民のみなさん」のエンディングで毎日聴くことができます。

田村：

あはは。いやいや。

藤井：

この番組、毎日ジェイコムチャンネルで放送してますからね。

田村：

そうやけどね。確かに毎日聴けるけど、曲だけを聴きたい人いるでしょ。こんなすごい曲なんですから。俺たちのしゃべりが邪魔でしょ。

藤井：

本当はこの番組で聴いていただきたいんですけど、なんと市制施行80周年記念サイトで音源のダウンロードが無料で出来るんですって。

田村：

そうなん！？無料！？

藤井：

しかも、ミュージックビデオまで見ることもできるんです。その他にも記念イベントのお知らせなども載っていますので、ぜひ80周年記念サイトを見てください。

田村：

それでは、また次回お会いしましょう。さようなら！

すいぱんが出来ました！

田村：

あははは、楽しかったね～、今日も。

大塚さん：

お疲れ様です！

田村：

あれ！？「すいたん」がいる！どうしたんですか？急に。

松本さん：

今日は田村さんと藤井さんにぜひ食べていただきたいものがありまして、すいたんとやってきました。

田村：

何ですか？いったい。

大塚さん：

すいたんをモチーフにして作ったパンで、その名も「すいパン」です！

田村：

「すいパン」？

大塚さん：

ぜひ手に取ってください。

田村：

あ、これ？ いいですか？ あ！すいたんの形になってる！

けっこうずっしりしてますね。かわいい！

これは、お二人が作られたんですか？

松本さん：

そうなんです。私達は吹田市役所の職員が有志で活動している「enZINE（エンジン）」というグループで、その活動の一環で「すいたん」をモチーフにしたパンを作らせていただきました。

田村：

「enZINE（エンジン）」。どういう集まりなんですか？

松本さん：

吹田市役所の若手の職員が有志で業務とは別に市のPR活動などを行っています。

田村：

お二人はもしかして吹田市の職員さん？

大塚さん：

はい。若手職員を中心に活動しています。

田村：

そうですね。なんかタレントさんというか…

藤井：

そうですね。なんかシュッとしていらしゃる。

大塚さん：

綺麗どころを用意してきましたので。

田村：

二人とも清潔感があって、地方局のアナウンサー感がすごいですよ。

大塚さん：

ありがとうございます。

田村：

食べてみてもいいですか？

大塚さん：

はい！ぜひ召し上がってください。

田村：

俺、チョコや。

藤井：

私のはチーズって書いてあります。味もいろんな種類があるんですね。

田村：

いただきます。うん！もちもち！

藤井：

私、ほっぺたから食べよう。もちもち！

大塚さん：

大塚さん：

千里金蘭大学の栄養学科の方が米粉を研究されていて、
その方々と連携して作っております。

噛めば噛むほど、米粉の甘い風味が出てくるので。

ゆっくり噛んで召し上がっていただければ。

田村：

研究者が入ってるだけあって、めちゃくちゃ美味しいよ。

なんかこういうのって褒めるじゃないですか？だから褒めてるように
感じるかもしれませんが、マジなやつですよ。

藤井：

嘘のつけない二人ですからね。

田村

焦げ目もちょっと苦みでアクセントになってて、もちもちで
噛めば噛むほどという。これ、旨い。

大塚さん：

パンを作ってくださった（吹田市障がい者の）働く場事業団さんは普段、
市役所内でもパンの販売をされていたり、店舗もかまえて JR 吹田駅前で
パンを販売されてる方々なので、本格的なパンとして今回作っています。

田村：

見た目でなめてたらビビるね。

藤井：

これは、これからどこで買えるんですか？

大塚さん：

市役所の本庁舎であったり、パンの製作に協力いただいた大学であったり、
店舗さんであったり、計5カ所で4月7日から販売予定です。

田村：

吹田の駅前の名前なんでしたっけ？はぴなび？はぴすま！

「はぴすま」でも売られるんですか？

大塚さん：

はい。

田村：

なるほど。

大塚さん：

1個180円で販売予定なので。

藤井：

これ、お腹にたまりますからね。

田村：

チーズも合うわ。美味しいわ。

ちなみに、今度このパンをどうしていききたいとか展望とかあるんですか？

松本さん：

「吹田の名物といえば“すいぱん”」「“すいぱん”は吹田のソウルフード」
そんな文化を根付かせていきたいと思っています。

田村：

なるほど。これを有志でやってるのがすごいですよ。

藤井：

若手のやる気がこのパンに詰まってるってことですよね。

田村：

そういうことですね。良いこと言いますね！

藤井：

ありがとうございます。閃きました。美味しいパンを食べて。

大塚さん：

仕事が終わった後であったり、昼休みを使ったりとかで。

田村：

なるほど。給食で食べたりとか、そんなふうになれば広まっていきそうな。

大塚さん：

パンにしたのも「小さいお子さんも親しめるものを」ということで
今回パンにしていますので。

田村：

わかりました。

今度もどんどん盛り上がっていくように応援していますので
米粉のように膨らませてください！

大塚さん：

ありがとうございます！

--	--